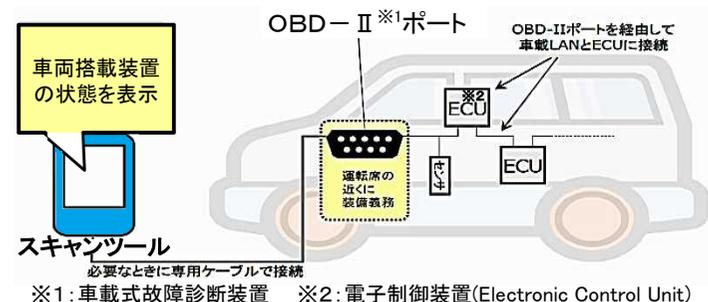


【検討会開催の背景】

- 電子制御が多用されている自動車の優れた性能を維持するためには、車載コンピュータを活用して故障を診断し、必要な整備を効果的に行うことができる汎用型のスキャンツールの活用促進や整備要員の技能向上等の人材育成が求められている。
- そのため、平成23年度から、有識者及び関係団体からなる「自動車整備技術の高度化検討会」を設置し、平成24年7月に排ガス関連の装置に対応した汎用スキャンツールの標準仕様の策定及び活用研修の創設をした。
- しかしながら、急速に普及しているハイブリッド車や衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全装置に汎用型のスキャンツールが対応し、これらに対する適切な点検整備が行える体制作りが課題となっている。

スキャンツールを用いた故障診断

スキャンツールは、従来の機械的な方法ではなく、外部から車載コンピュータに接続し、車載装置の故障状況を診断するもの。



検討会の開催

【検討会の委員】

- 学識経験者
 - 須田教授（東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター長）
 - 古川教授（芝浦工業大学大学院理工学研究科 特任教授）
- 関係団体
 - （一社）日本自動車工業会
 - （一社）日本自動車整備振興会連合会
 - （一社）日本自動車機械器具工業会
 - （一社）日本自動車機械工具協会
 - 全国自動車大学校・整備専門学校協会
 - 全国自動車短期大学協会
- 行政機関等
 - 自動車技術総合機構
 - 軽自動車検査協会
 - 国土交通省自動車局整備課

【日程・検討内容】

<調査・検討の日程>

- 平成27年9月25日（第9回検討会）
- 平成27年11月（約1か月間）アンケート調査
- 平成28年1月12日（第10回検討会）
- 平成28年3月23日（第11回検討会）
- 平成28年8月3日（第12回検討会）

<調査・検討内容>

- スキャンツールの使用状況及び活用状況のアンケート調査－市場ニーズの把握
- 汎用型のスキャンツールの新たな標準仕様－自動車メーカーからの提供情報の範囲及び情報提供時期
- 高度診断教育－整備環境及び人材育成体制の充実等